

第 1 調査結果の特徴

1 県の平均変動率は、全ての用途において6年連続で上昇したが、住宅地と商業地の上昇幅は縮小し、工業地の上昇幅は拡大した。

- (1) 平均変動率をみると、住宅地は1.3%の上昇（昨年1.6%）、商業地は2.5%の上昇（昨年2.7%）と上昇幅は縮小したが、工業地は3.2%の上昇（昨年2.3%）と上昇幅は拡大した。＜表1(P3)参照＞
- (2) 上昇、横ばい、下落地点数の割合をみると、住宅地では上昇地点数が67.7%（昨年70.0%）を占め、横ばい地点数が18.6%（昨年17.7%）、下落地点数が13.8%（昨年12.4%）となった。
また、商業地では上昇地点数が82.0%（昨年83.0%）を占め、横ばい地点数が13.6%（昨年11.1%）、下落地点数が4.4%（昨年5.9%）となった。＜表2(P3)参照＞

2 住宅地では、名古屋市、尾張地域、知多地域及び西三河地域で上昇し、東三河地域で下落となった。商業地では、名古屋市、尾張地域、知多地域、西三河地域及び東三河地域の全地域で上昇となった。

- (1) 地域別の平均変動率をみると、住宅地では名古屋市で2.7%（昨年3.0%）、尾張地域で1.5%（昨年1.7%）、知多地域で1.3%（昨年1.6%）、西三河地域で1.1%（昨年1.5%）、東三河地域で△0.2%（昨年△0.1%）と名古屋市、尾張地域、知多地域及び西三河地域で上昇を、東三河地域で下落を示した。＜表5(P6)参照＞
また、商業地では、名古屋市で4.0%（昨年4.1%）、尾張地域で2.2%（昨年2.2%）、知多地域で0.9%（昨年1.4%）、西三河地域で1.9%（昨年2.4%）、東三河地域で0.2%（昨年0.4%）と全ての地域で上昇を示した。＜表5(P6)参照＞
- (2) 市町村別の平均変動率をみると、住宅地では長久手市、常滑市など38市町（昨年40市町）で上昇を示し、商業地では長久手市、一宮市など42市町（昨年41市町）で上昇を示した。＜表7(P8)、表10(P9)参照＞
一方、住宅地において、新城市、南知多町など13市町村（昨年13市町村）が下落を示し、商業地でも設楽町、南知多町など7市町（昨年8市町）が下落を示した。＜表8(P8)、表11(P9)参照＞
- (3) 名古屋市各区分の平均変動率をみると、住宅地及び商業地において、全ての区で上昇を示した。＜表9(P8)、表12(P9)参照＞

3 最も大きい上昇率を示した地点は、住宅地では「中村（県）-4（則武2丁目）」（10.8%）、商業地では「熱田（県）5-4（神宮3丁目）」（9.8%）であった。

一方、最も大きい下落率を示した地点は、住宅地では「西尾（県）-12（東幡豆町）」（△4.9%）、商業地では「設楽（県）5-1（田口）」（△3.8%）であった。

- (1) 住宅地では変動率上位5地点は名古屋市中村区千種区、清須市、常滑市及び一宮市の地点が占めた。＜表13(P10)参照＞
また、商業地では変動率上位5地点は名古屋市及び一宮市の地点が占め、そのうち、2地点を熱田区の地点が、中村区及び千種区はそれぞれ1地点であった。＜表15(P11)参照＞
- (2) 住宅地では変動率下位5地点は西尾市、豊田市及び豊根村の地点が占めた。＜表14(P10)参照＞
また、商業地の変動率下位5地点は設楽町、南知多町、豊田市及び田原市の地点が占めた。＜表16(P11)参照＞